

委員長からの説明

- ・ 2005年度発刊の検討書の改訂版を来年度中に出したい
- ・ 他分野の人に光赤外コミュニティがどういうビジョンをもっているかを説明する書きもの
2005年版は大型プロジェクトに絞ったものだったが、中規模計画まで含めたものにする。

委員からの報告

- ・ アンケート結果
- ・ 今回のシンポジウムのサマリー、タイムライン

以下、議論メモ

改訂版の編集体制や今後の議論に関するもの

- ・ 編集委員会みたいなものを設けて、編集に責任を持つ人を当てられると良い。
- ・ 分科会で集まって議論を重ねるための予算は？ 前は編集長が探して見つけてくれたと思うが。
- ・ 国立天文台や宇宙研でそういった助成はないか？ → 宿題
- ・ Executive Summary のようなコンパクトなバージョンも作っているところ配ってはどうか
- ・ Executive summary の英語版を用意して、Astroph など上げるのも良い。

- ・ 宇宙研でロードマップが議論されている。トップダウンとボトムアップの中間的な感じ、コミュニティの望むサイエンスとうまく適合すると良いが。
- ・ 宇宙研のロードマップは、ロケットや衛星の技術的なことも含めた、色々な総花的なものなので、光赤天連がサイエンスの立場で高所から意見することが大事
- ・ 全体としてこういうミッションがあって、それに対してこういうふうフィットするといった感じで説明できるものになると良い。

- ・ 10年前とは、周辺の国力のバランスが違っている。純粋にサイエンスだけの観点ではなくて、総合的に何をやると効果的か、といった観点で道を探すのも必要。
- ・ 報告書をどうまとめるかを議論する、中間報告の場も必要になるだろう
- ・ まとめるのは2015年3月。それまでにまとめ方をさらに議論することは可能。
- ・ 書くプロセスを通じて、コミュニティ全体でどういうことをやりたいのかをまとめることにもなる。その意味合いは大きい。
- ・ 2020年代これが行えればホームランといった基軸サイエンスを決める研究会を開いても良い。皆で集まって議論する。

- ・ 前は2002年9月の光赤天連シンポがきっかけで、将来計画検討WGを作り、最終版が出るまでに光赤天連シンポジウムなど2-3回中間報告の場があった。
- ・ 今回の場合、少なくとも来年の光赤天連は、中間報告会を行い皆で議論する場になるだろう。

- ・各セクションの担当者から決めるか、それとも全体を統括する人から決めるか。
- ・誰かが音頭を取って、各担当者へ執筆を依頼するといった感じが良いだろう。
- ・編集長と、実働の編集部員は必要。
- ・まず5名程度のWGを作って始めてはどうか。
- ・今回の世話人も5人。今回の世話人がまずプレ編集委員会としてスタートする、というのでどうか。
- ・プレ編集委員会でワーキンググループの発足までの道すじをかんがえ、gopiraに提案する。

報告書の骨子、章立て、内容に関するもの

- ・2005年版にはコミュニティとしてこう進めたいというのが書かれていたので使い易かった。
- ・単にタイムラインを書くだけでなく、もう少し踏み込んだ議論をして手順を考え、掲載すべき
- ・4章と5章（地上望遠鏡、スペース望遠鏡） もっとメリハリを付けて書くと良い
TMT, SPICA は優先度高、すばるは別章、他のは別のまとめ方にするとか
- ・TMTやSPICAのような基幹的なコミュニティ全体に関わるプロジェクトと、南極望遠鏡やSGMAPのような先鋭的なものは分けてまとめるのが良い
- ・人的リソースも考えないといけない。実行体制をきちんと示せというアンケートの回答もあった
- ・第2章は前回と重なることが多いので、削れる部分が結構ある。
- ・光赤外でどう考えているかを他分野の人に示すということもあるので、前回と重複したとしてもあって良い。
- ・10年間使い続けることになるので、逆に縛るようなことはないようにしたい。人的リソースの検討は良いが個別に名前を挙げなくても良いのではないか
- ・宇宙物理学全体の中で我々がどういうところを担当するのか、攻めるのかという観点での記述もあるべき。サイエンスをスタートラインに、論理的に、こういった装置が必要だと書けると良い
- ・TMTとSPICAがtop priorityであることがはっきり判るようにして欲しい。それ以外にcompetitiveな中計画がいろいろある、といった感じで。
- ・10年前とは目的が変わっており、今回はTMTとSPICAを推すのが第一だったが、今回はそれにはまらない中規模計画もサポートする目的もあるので、分けてまとめるのも良いだろう。
- ・SPICAとTMTの大型プロジェクトをオールジャパンでこういうふうにする、それで賄えない部分を各プロジェクトでやる、といった感じで書いてあると良い。
- ・地上とスペースで分けなくて良いのではないか？ スペースの方はJAXAのロードマップがあるといいつつcompetitiveなプロセスを経るので、同列に扱いづらい。
- ・サイエンスの章については各分野の分科会のメンバーをどう集めるかを決めておいたほうが良い。前回はコアメンバーを決めておいて、tennetでメンバーを募集した。
- ・サイエンスについては、どういう仕様のどういう望遠鏡が必要かを必ず書いてもらうようにした。そしてそれを引いた形で8章のまとめを書いた。
- ・前回のサイエンス検討を眺めると、必要観測仕様のまとめでは、地上30mとスペース3m落ちていていて検討書のテーマに沿った感じにまとまっているが、今回もそうなるかもしれないし、あるいはばらばらで

まとまらないかのどちらかになる。始めにいろいろ考えておくべき。これはできない、というのもあって良い。

- ・ 6章（最終章）のまとめかたに関して、大規模計画と中規模計画との関係、天文台と大学との関係についての節もあるべき 前回は無かったと思う
 - ・ Post TMT, post SPICAについてもキックオフとして含めてはどうか。STSCi などでは beyond JWST の議論も始まっている
 - ・ 国際協力をして日本が何を獲得し、どういう進展を目指すのかということが書けると良い
 - ・ 前回の 8.1 節は、メインが TMT と SPICA がだったので必要だったが、今回は違うだろう。
 - ・ 色々なサイエンスがある。この部分で突出すれば世界に張れるといったようなことを記述すると良い。
 - ・ 一枚ものの絵が作れると良い。
 - ・ 誰かが頑張って最終章を書けば良い。前回はそうだった。
 - ・ 前回の 8（最終）章は第一線の少人数で書いてまとめたのだろう。誰か責任ある執筆者が担当すべき。執筆者をどう決めていくかを決められると良い。
-
- ・ 前回は TMT と SPICA の両方が必要、というのが最大のテーマだった。今回も何かそういったテーマを設けられないか。例えば TMT とすばるの共存とか。
 - ・ 前回は TMT、SPICA、TPF、JASMINE のプロジェクト色が強かった。同じプロジェクトについては前回から 10 歳若い人を書いてもらうのが良い。
-
- ・ 個々のプロジェクトに書いてもらってからまとめるのか、大きなテーマがあってそれに沿って書いてもらうのかで書き方が変わってくるが、どうするのか。
 - ・ 現実的には前者になるだろうが、後者も検討する
 - ・ 先に全体の目標を示しておいて、各プロジェクト、サイエンスに書いてもらい、その後にまとめの章を書く。大規模計画と中規模との関係も示す。
 - ・ 前回は編集委員会側で chaptering のひな形を用意しておいて、それに沿って書いてもらった。
 - ・ コンセプトは共有した上で、それぞれお個別に書いてもらう感じが良い。
 - ・ その辺について、今後もう少し検討し、議論することにする。執筆に取り掛かるのはその後。